

平成 26 年度 第 1 回 千曲市食料・農業・農村政策審議会
議 事 録

日 時：平成 26 年 8 月 19 日(火) 13:30～

会 場：千曲市役所 上山田庁舎 301 会議室

出席者：木村会長、松澤副会長、関口委員、城本委員、宮坂委員、村松委員、
濱田委員、金井委員、瀬在委員、塚田委員、坂口委員

欠席者：久保委員、長坂委員

議 題：(1) 千曲市食料・農業・農村基本計画の概要について
(2) 平成 25 年度実施状況について
(3) 千曲市食料・農業・農村基本計画の見直しについて
(4) 情勢報告

1 開会

2 会長あいさつ

3 議 事

(1) 千曲市食料・農業・農村基本計画について

・事務局より概要説明

木村会長	計画の進行管理について、ワーキンググループはどのように関わっているのか。
事務局	計画策定時は食料施策、農業施策、農村施策でワーキンググループを開催した。進捗管理については、年度末に各課に照会をして確認している。
委員	審議会が年 1 回のみで開催では、審議が形骸化してしまうのではないかと。もう 1 回ぐらい開催しても良いのではないかと。
事務局	日程調整をして、年度内にもう一度開催できるように調整したい。
委員	リーディングプロジェクト（以下 LP）は早急に行なう施策となっているが、計画の 5 年間で達成すればよいのか。
事務局	27 項目ある LP は、基本条例に定められた 12 分野の取り組みを先導するものであり、これが全てではなく、5 年間かけて達成すれば良いというものでもありません。

(2) 平成 25 年度の実施状況について

・事務局より実施報告書説明

- 委員 荒廃農地対策について教えてほしい。
- 委員 市で実際の荒廃農地の把握はしているのか。どのくらいあるのか。
- 木村会長 荒廃農地対策に関連するLPはいくつかある。基礎的なデータを委員のなかで共有する必要がある。
- 事務局 農業委員会で毎年集計していて、全農地面積2,111ヘクタール中227ヘクタールが荒廃農地となっている。そのうち再生困難（A）が122ヘクタール、再生可能（B、C）が105ヘクタールである。
- 副会長 遊休農地と荒廃農地は明確に違う。農業委員会では農地パトロールを行なっており、地主に指導も行なっている。しかし荒廃農地はかなり進んでおり、対応が求められている。
農地中間管理機構については、平地は良いが、全てを包括することはできず、中山間地をどうするかという課題がある。
- 木村会長 膨大な筆を集約して、目に見える形にすることは非常に大変である。遊休荒廃地に関連するLPがいくつもある。まとめあわせていくと整理ができると思われる。
- 委員 貴重な労働力である団塊の世代をどうやって活用していくか。そういった世代へのアピールも大事。例えば農機具の貸し出しなどを市が行なえれば農業に入りやすいのではないか。
- 木村会長 LPにはそのようなメニューがたくさんある。LPを活かすためにも、LPに関連付けて実施していくべきである。
- 委員 今の若者は、少しでも節税できるように努力している。農地を借りようとしてもお金がかかる。需要と供給を考えても貸したい人のほうが多い状況。農地が無料ならやってみようという若者がいるかもしれない。まずは地元の方がそのことに気づいて欲しいし、いなければ市外の方でも良いと思う。山の方で作ったお米は美味しい。
- 木村会長 無料で農地を貸し出すような仕組みはありますか。
- 事務局 個々には相対でしているケースもあるが、市にはありません。
- 木村会長 千曲市は棚田オーナー制度を行なっているが、ボランティアのボランティアがいて成り立っている。いろんな活動をセットで考え、プラスにしていく。そんな仕組みを考えて行くことが必要。
- 委員 姨捨の棚田を保存して行こうとする団体が増えてきた。基本条例にある市民の責務をみんな考えて行くべき。
- 木村会長 名勝に指定されても上姫石地区の一部のように山林化しているようなところもある。担い手がいなかったり条件が悪くと荒廃化してしまう。中山間のハードの整備は必要だが、それだけではだめで、その後、誰が耕作するのかまで考えないといけない。

- 委員 科野農業塾では棚田で稲作をしたり、五加で小学生と玉ねぎを作ったりしている。土地は無償でよいといわれても、固定資産税はかかるのでその分くらいは支払っている。やはり行政が仲介する等しないと相対で交渉するのは難しい。
- 委員 シルバー人材センターなどに依頼して草刈りをしてもらうことを考慮すると、無償でも良いのではないか。
- 委員 できることなら農地を売ってしまいたいという人のほうが多いかも。農業をするより勤めていたほうが収入の安定があるため。
- 副会長 賃貸は農業委員会にきちんと届け出てやったほうが良い。農業委員会に賃借料の目安がある。
- 木村会長 今、皆さんからいただいたご意見が、いろんなところで遊休荒廃地対策に繋がっており、LPの役割をどのようにしたら良いか考える材料になる。
- 委員 収入が上がれば農業をやる人はいる。例えばアスパラのような、お金になる商品作物を先導する施策も必要。
- 木村会長 LP15に研究テーマとして挙げていっても良いのではないか。実施していないLPや言い回しが前年と同じLPの検証が必要。
- 委員 事業でそばを製造しているが、そば粉は安曇野産を使用している。作物には気候や土地によって合う作物と合わない作物がある。国産でかつ地元でできればありがたい。千曲ブランド加工業者と生産者の話し合いの場を設けている。
- 木村会長 そばに適している土地を産学官連携で調べられないか。
- 委員 定年した方が収入を得て生活する手段として（商売として）農業を選ぶかといったらそうではないと思われる。自分が食べるから農業をやるのではないか。
- 木村会長 今すぐやらなければならないことと、長期的にやらなければならないことの仕分けが必要である。優先順位をつけるべき。
- 委員 学校給食の地元産農産物の使用率は何%か。
- 木村会長 第1給食センターと第2給食センターで倍近く違うのはどうしてか。
- 事務局 第2給食センターの方が規模が小さいため、規格外の地元産でも対応が可能なためです。
- 委員 全体的に地産地消率が低いのはどうしてか。
- 事務局 原因の一つとして考えられるのは、規格外のものを入れられないことがあげられる。
- 委員 要因として給食センターに納入するには、条件が厳しいのではないか。生産者の方から断っているのではないか。

木村会長 木村会長	岐阜県のある市では農家の方から積極的に持って行くケースもある。 基本計画に載せておきながら、なかなか進まないことがまどろっこしい。
委員	学校給食の地産地消率に関して、低いのであれば何が原因か、その対策はこうだ というものを示して初めて審議会になるのではないか。これでは審議会のための 審議会になってしまう。
木村会長	このような計画はP D C Aサイクル（計画→実行→確認→行動）で行なうことが 多い。短い時間の中でこの作業を行なうことは難しい。
事務局	委員の皆さんのご意見を用紙でいただき、事務局経由で会長に伝えるようにしま す。

(3) 基本計画の見直しについて

・事務局より説明

木村会長	審議会のあり方、進捗管理のやり方にも繋がってくると思われる。
委員	5年間の総括をきちんとして、次の5年に向かって行くべき。 今回の実施報告で次へ行ってしまうのか。もう少ししっかりとまとめたほうが良 いのではないか。
事務局	年1回の会合では少ないと思われる。今年度、再度審議会を開催して、総括まで できるかはわからないが報告をしたい。見直しについても、早めに着手して行き たい。
木村会長	計画を作ったら点検評価をきちんとやったほうが次に繋がって行く。 市のホームページを見ると、点検評価のページがある。参考になる。

(4) 情勢報告

・事務局より説明

質疑応答なし

5 閉会

以 上